

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201229		
法人名	NPO法人重宝会		
事業所名	グループホームはまかぜ		
所在地	熊本県天草市倉岳町宮田270-1		
自己評価作成日	平成29年11月18日	評価結果市町村報告日	平成30年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成29年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>静かな環境で、季節感も味わえる場所にある。ケース検討会や普段の申し送りでも統一したサービスが提供できていると思う。多方面で職員の特技も生かし、環境作り、調理、収納等に工夫が来ている。狭いスペースではあるが入居者の動きがよくわかり安心した暮らしが提供できている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>生活で慣れ親しんだ海に面した事業所では、地域で長く生活してきた方々にとって温かで穏やかな生活が送られている。職員は「入居者と家族の絆」を何より大切にしながらも、近隣に花が咲けば一緒に楽しみ、天気の良い日にはシーツを洗いと家庭では当たり前の姿も見え、「事業所は我が家であり職員は家族である」姿が窺えた。職員の入れ替りもほとんどなく、常に入居者に寄り添い、より良いケアに向け検討し向き合うことは職員全体のスキルアップに繋がり、入居者の穏やかな様子に繋がっている。年々、日常的な外出の機会は減ってはきているものの近隣と事業所の関係は変わらず、地域に根付いた事業所である。今後は、入居者同様、職員の高齢化を見据えたケア支援のあり方等にも工夫を凝らして何時までも現役で働けるような職場作りにも期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのふれ合いを理念に掲げ月曜日の朝礼で唱和し理念に沿ったケアができているか振り返りの機会を持っている。	従来からの理念は職員一人ひとりに浸透しており、ケアの基本として折りに触れ振り返りを行っている。パンフレットや広報誌、運営推進会議でも発信を継続し、事業所に根付いたものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来るだけ地域行事には参加するようにしている。実習生の受入も行っている。事業所での行事には参加を呼びかけ交流に努めている。	地域の祭りや行事に毎年参加している。入居者も職員も地域に関わりがあり、祭りを継承していく立場でもある。地域の高齢化もみられ、近隣住民との日常的な行き来、関わりも大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動に福祉関係で参加したりワークキャンプや中学校の職場体験学習の受入を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議の資料にサービスの状況や取り組みを入れ意見を求めている。出席した委員からの意見や要望はサービス向上につなげている。	会議では入居者の様子やサービス提供の状況を報告し意見を頂いている。市役所又は地域包括支援センターからも参加があり、地域住民や家族等との意見交換も活発にみられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へも市の職員に参加してもらい市からの研修等には必ず出席している、疑問点は電話等で問い合わせ協力関係を築いている。	運営推進会議への参加後には議事録も提出している。集団指導等機会ごとに参加し手続き等で顔を合わせることで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し参加者より報告を受け理解に努めている。身体拘束をしないケアへの取り組みを心がけている。	研修に参加し、受講後は職員全体会議で報告を行い共有を行っている。言葉の拘束含め気になることがあれば職員同士で注意し合える環境である。もし拘束に繋がる処置が必要となることがあれば、家族と相談・了解を得ながら対応することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等へ参加し正しい知識を持ち虐待防止に努めている。		

グループホームはまかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学ぶ機会を持ち入居者への検討を行う場合もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を取り内容を詳しく説明するようにしている。入居時の不安や疑問を軽減するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時家族からの意見や要望を聞く機会を作っている。運営推進会議で報告することもある。	面会の際には入居者の様子を積極的に報告し、意見や要望等を話して頂ける機会を持っている。家族の面会も多く見られるが、遠方の方へは日頃から電話・手紙等でコミュニケーションを図り、意見の出やすい雰囲気作りに努めている。	入居者アンケートでも家族の満足度が高く、事業所と家族の関係の良さが見られました。今後も家族からの意見が出しやすい環境作りを継続してください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員全体会で話し合う機会を作っている。その後の事業所別の会議でも意見を出し合うこともある。	毎月の法人会議、その後の事業所会議、毎日の申し送りと職員が意見を述べる機会がある。日頃から管理者・計画作成担当者は職員が話しやすい雰囲気作りを行っており、皆で意見を出し合う体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の報告や実際の勤務状況を見ることにより、把握に努めている。職場環境の整備に努め相応の配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加は常々呼びかけ情報も提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームへの連絡会に参加し交流を行っている。時々電話等で情報交換を行っている。		

グループホームはまかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子をみたり、会話をしたりすることで希望を尋ねたり入居前の情報等でサービスにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望を聞くことにしている。話を聞く機会を多く持つことにより、信頼を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に訪問し、家族、本人の必要としているサービスを相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見極め調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、食事の後片付け等を行ってもらっている。達成感を味わえる言葉かけを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族へ様子を知らせる手紙を出している。面会を依頼したり電話で様子を報告することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはいっしょにお茶を飲んでもらったり部屋で話をしてもらったりゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。地域行事への参加も心がけている。	家族との関係も大切にし、家族の季節行事で外出もある。隣接の法人事業所利用者との交流や、近隣住民とお付き合い等、入居後の新たな関係も馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や入浴の順番テレビを見られる場所等、利用者同士の関係を考慮し支援している。		

グループホームはまかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先を訪問したり遠方に住んでおられる方の相談にのったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の対応や様子観察本人との会話等によりその人自身を尊重する対応に心がけている。	職員は日頃から入居者と共に時間を過ごすことを大切にしており、言葉掛けの工夫や様子等から思いや意向を把握している。特に食事やおやつ、入浴時間は弾んだ日常会話から出ることが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を聞いたり以前利用されていた病院や施設の情報を収集したり把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの情報交換、毎日の記録、定期的なケース検討会でスタッフ全員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族共に意見を尋ねている。アセスメントはスタッフ全員で行い計画書案も事前に提示し意見を聞いている。	担当者の経過観察も用い、毎月全職員が参加しケース検討会を行っている。半年毎に評価を行い、介護計画の見直しの際には入居者・家族からの意見を取り入れ、現状に即した介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日行い、気づいた点はケース検討会や申し送り帳で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時、受診時、入退院時の引率を行っている。外泊時の送迎や遠方よりの面会者に食事を提供することもある。		

グループホームはまかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、季節の移り変わりの様子を話題にし外出したりしている。家族に面会を求めたり帰宅支援をすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医があり必要時には定期的に受診し、指示を受けている。受診率や状態の報告も行っている。	以前からのかかりつけ医を受診出来る様支援しているが、現状は協力医による往診も多い。個別の通院は基本的に家族介助をお願いしているが、職員による通院介助も行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常に変化があった時は、全員で情報を共有し、かかわりを持っている。かかりつけ医にも報告し指示を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には様子伺いを定期的実施し状態が把握できるようにしている。退院に向けての話し合いや転院等への話し合いも病院と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	おおまかな終末期のあり方は日頃の会話の中で把握している。その時の状態や症状によりかかりつけ医、家族と相談し、対応している。	入居者・家族の意向を第一とし、希望があればかかりつけ医・家族・協力機関と連携し看取りまで対応する体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃の会議の中でも急変時の対応については話し合いを行っている。救命講習も全員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害に対する避難訓練を実施し、近隣へも協力を依頼している。運営推進会議でも議題に取り入れている。	海に面していることから、火災に併せ津波・地震想定での訓練を入居者参加にて行っている。通報装置の近くには緊急連絡先の掲示、マニュアルの設置、ヘルメットの備え付け等があり、運営推進会議でも話し合いを重ねる等、意識も高い。	近隣や法人の協力もあり、また熊本地震の際には避難を受け入れる等、地域との連携がみられます。様々な災害に備え、事業所職員だけの訓練等、更なる工夫が必要だと思われます。

グループホームはまかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は敬語で会話を心がけているが、その方が理解できる言葉かけの場合もある。	職員は入居者に対して時には方言を、時には親しみをこめた言葉を用いながらも敬語を基本とした言葉遣いに配慮している。個人情報に関しても十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動される毎に、本人に思いを確認する。思い通りに過ごされるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いを訴えて伝達できる人は少ないので、動き方や表情で声かけして援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由に着脱できる人はおまいのままに任せている。出来ない人は、本人にたずねて介助している。散髪も定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みは、食べられる様子を見て把握し提供する量に反映している。おやつも食事と共に食べ、下ごしらえや後片付けはそれぞれの得意分野を生かしている。	栄養士による献立で地元の野菜をふんだんに使った家庭的な料理を提供している。手作りであるため、入居者の当日の体調等により個別の対応も可能で、職員も同じ食事で食卓を囲むため会話も弾み、楽しみの時間となっている。	介護度も上がってきている中、下拵えから片付けまで、出来る範囲での入居者の関わりが見られました。今後も慣れ親しんだ料理を職員と囲み、共に過ごす時間を大切にして頂きたいと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記入することによりスタッフ全員が把握している。好みと摂取能力に応じた援助をおこなっている。体重の確認も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、誘導、介助等で実施している。夕食後は、義歯洗浄剤を使用介助している。		

グループホームはまかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録やケースカンファレンスでパターンを把握し一人ひとりに応じた援助を行っている。使用するオムツの種類も個々に応じている。	入居者の介護度も様々で、排泄記録を用いながらリハパン、パット等も利用しながら個別対応を行っている。夜も個別の状態に応じ、ポータブルトイレの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を記入し、水分摂取や野菜の摂取に取り組んでいる。運動も定期的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自ら入浴を希望できられる方はなく、定期的に拒否なく穏やかに入浴できるようにその人にあつた誘導で支援している。	入浴は午後を中心とし1日おきを基本としている。入浴時は身体状況により職員1人又は2人で対応し、安心して穏やかに、ゆったりと過ごせるな時間となる様支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自主的でマイペースな動きを支援している。ソファやベッドで休まれる方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診介助、診察日の付添いケースに綴つてある薬の説明書等で理解し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや、得意の分野での家事手伝いやゲームを見つけ、それぞれに楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援で外出されることもある、季節ごとの花見やドライブ、外食、行事や散歩等が出かけることはあるが、全員が希望されるような外出支援は困難。	入居者の状況もあり日常的な散歩は難しくなつた。職員との買い物や外食、地域行事の見学等、機会を作り個別の外出支援を行っている。近隣で季節の花々が見られることから、季節毎に隣家の庭でお弁当を楽しむ等、住民と触れ合う機会もある。	高齢化に伴い日常的な散歩が難しくなつた様子が窺えました。事業所周辺だけでも外へ出て、外気を感じる機会の継続を期待します。

グループホームはまかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を所持しておられる方はあるが金銭感覚はなく、持っていることに満足されている。受診の時等、出されることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の取次ぎは行っている。かけてあげることもある。年賀状や領収書発行時の手紙の同封時には伝言を聞くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花を飾ったり、タペストリーを展示してもらい移り変わりを感じてもらっている。その時々に応じ、照明やテレビの音量等も配慮している。	事業所内は季節の花や果物等身近な植物が飾られ、壁には職員手作りの季節毎の手芸品が飾られたりと、入居者との話題にもなり楽しんでいる。掃除も行き届き、換気や光量にも配慮し、心地よく生活できる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見たり、自室で見たりされている。玄関先やホールでも自由に過ごしてもらえるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持込の家具や寝具を置いている。本人の状態に合わせたベッド等を使用している。	ベッドが準備された居室には、使い慣れた筆筒や仏壇も持ち込まれている。入居者それぞれの状態により家具の配置に配慮され、安全に、心地よく部屋づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできること、できないことを見極め、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ等、手を出しやすいよう配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームはまかぜ

作成日 平成 30 年 1月 6日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	行事等での外出はあるが 日常的な外出支援が不充 分	一人一人に合わせた外出 支援を行う	時間や状態を検討し、散 歩等の日常的な外出支援 を行う	一年間
2	10	運営に関する家族の意見 を聞く機会が不足してい る	年2回程度家族会を実施	家族の集まりやすい日時 を決め実施	一年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。